

ホールセール部門

“ 競争力の高い分野に注力しながら、世界のお客様の幅広いニーズに応えるべく、付加価値の高いプロダクトやサービスを提供していきます。また、部門間および地域間の連携で生まれる最適なソリューションを通じて、お客様からの信頼を深めたいと考えています。”



ホールセール部門CEO  
尾崎 哲

ホールセール

市場環境と2014年3月期の業績

ホールセール部門の収益合計(金融費用控除後)は、顧客ニーズに適したサービス、プロダクトにフォーカスした結果、各地域がバランス良く収益に貢献し、前期比18.6%増の7,651億円でした。また、コスト構造の見直しによる損益分岐点の引き下げにより、税引前当期純利益は同56.0%増の1,118億円となりました。

第1四半期は市況好転の影響を受けた日本が収益を牽引しました。第2四半期以降は日本の収益が低下したものの、海外地域の収益が増加し、ホールセール部門全体としては年度を通じて収益が安定的に推移し、全地域で前期比増収となりました。

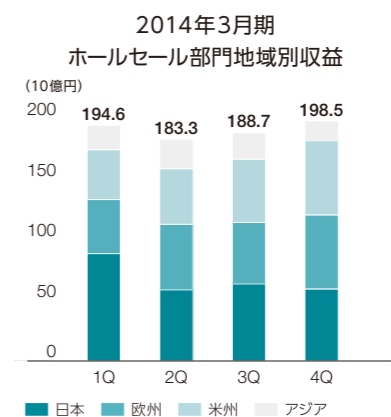
今後の取り組み

ホールセール部門では、マクロ環境や規制動向の変化を見据え、競争力のある分野に経営資源を適切に配賦することで、収益の分散と拡大を図ります。特に、部門間・地域間の連携をさらに強化し、お客様に新たな付加価値を提供できるビジネス機会の創出と収益化に努めていきます。

グローバル・マーケット

市場環境と2014年3月期の業績

2014年3月期は、フィクスト・インカムにとって厳しい収益環境となった一方で、エクイティではグローバルでの景気回復および各中央銀行による流動性供給の拡大が追い風となりました。特に日銀による異次元緩和政策の発表や年度後半における米国連邦準備制度による量的緩和縮小の示唆および地政学リスクにより、市場ではボラティリティの高まりが見られました。この結果、多くの投資家の活動が停滞し、商品別には金利、エマージング、証券化商品などが影響を受けました。



すべてはお客様のために

企業と投資家をつなぐ「ノムラ・インベストメント・フォーラム・アジア」を開催

グローバル・マーケットでは毎年シンガポールにて「ノムラ・インベストメント・フォーラム・アジア」(略称「NIFA」)を開催し、さまざまなネットワーキングの機会を通して、アジアを代表する企業と投資家をつないでいます。今年からは、エクイティ、フィクスト・インカム双方の資産クラスを対象を拡大し、イベント名称も変更されました。

「Globally Asia」というテーマで開催した今年のフォーラムはアベノミクスが焦点となり、アジアを代表する企業130社と投資家949機関の間で合計3,326件に及ぶミーティングが行われました。また、このイベントでは、当グループが地域における個人の優れた社会貢献活動を顕彰する「ノムラ・ケアーズ・アワード(Nomura CARES Award)」の表彰が行われました。



篠原アジア地域CEOのプレゼンテーション

## ホールセール部門

フィクスト・インカムは、中央銀行の諸政策や不安定なエマージング市場の影響を受けたマクロ経済の不透明性により、業界全体の収益機会が縮小したにもかかわらず、強固な顧客フランチャイズと徹底したリスク管理、経営資源の有効活用を支えられ、2013年3月期と同水準の収益を達成しました。地域別では日本が収益を牽引し、海外のビジネスはほぼ横ばいとなりました。

エクイティは前期比で増収を達成し、グローバル市場でのシェアが拡大しました。地域別ではアベノミクスによる恩恵もあり日本で大幅な収益増を達成、米国の収益も大きく伸長しました。これまで取り組んできた顧客フランチャイズ強化が奏功し、顧客収益は前期比で2割近く増加しています。子会社であるインスティネットとの執行機能の統合も順調に進み、グローバルで統一された執行プラットフォームを提供することが可能となりました。

## 今後の取り組み

フィクスト・インカムではボラティリティの低下やイールド・カーブのフラット化で顧客アクティビティの低下が見込まれる一方、先進国を中心としてエクイティへの「緩やかなローテーション」が想定されます。グローバルでの規制強化に伴い、厳しい環境の中、新たなビジネス機会も生まれると思われまます。当社では、2012年12月にフィクスト・インカムとエクイティをグローバル・マーケットに統合し、ビジネス・シナジーの追求とともにコストや経営資本の効率的な活用を



行いながら、主要ビジネスの強化、収益性の低いビジネスの見直しを進めてきました。今後も日本を中心とするさまざまな地域でのクロス・ボーダーのビジネスニーズをとらえ、顧客への最適なサービス、プロダクトの提供に努めていきます。

## インベストメント・バンキング

## 市場環境と2014年3月期の業績

2014年3月期は、グローバルで業種を問わず新規公開（IPO）が相次ぎ、米国市場をはじめとして株式や高利回りの債券の発行が活発になるなど、資本市場を活用した資金調達が高水準となりました。このような環境下、インベストメント・バンキングの収益（グロス）は1,843億円となりました。地域間や部門間の連携を促進し、グローバル市場での資金調達案件を多数手がけ、グローバルなM&Aや、それに付随するファイナンス、為替・金利取引などの多様なソリューションを提供してきました。

資金調達案件においては、サントリー食品インターナショナルのグローバルIPO、三菱自動車工業やシャープのグローバルIPOなど、業界を代表する大型案件で主幹事を務めました。また、ソフトバンクの米ドル建て債／ユーロ建て債や、欧州安定基金のサムライ債など、国内外の発行体の数多くの債券を引き受け一方で、ライツ・イシューや起債に伴う金利のヘッジ取引などのソリューション分野での業績も拡大しました。

海外では、日本のリテールの販売網も活かして、ベルギーポストのグローバルIPOにおけるジョイント・グローバル・コーディネーターと共同主幹事およびPOWL（国内非上場公募）の単独主幹事、衣料大手モンクレール（イタリア）のIPO共同主幹事およびPOWLの単独主幹事を獲得しています。

M&Aアドバイザーにおいては、グリフォルス（スペイン）によるノバルティス（スイス）の輸血検査部門の買収や、越秀企業集団（中国）による創興銀行（香港）の買収、エイコーン（米）によるハイテック・ファーマカル（米）の買収、日立製作所および三菱重工業の火力発電事業の統合など、多くの案件で重要な役割を担いました。

## 今後の取り組み

当社は以下に代表される分野に経営資源を集約し、付加価値の高いソリューションをお客様に提供することで、さらなるマーケット・シェアの拡大および収益性の向上に取り組んでいきます。

## M&amp;Aアドバイザー

国内外の大型業界再編案件に加え、地域間連携の推進により、日本企業による海外市場への参入や、成長著しいアジア企業が関連するクロス・ボーダーM&Aおよび付随するファイナンス、為替関連取引などに引き続き注力します。

## グローバルな資金調達

世界的に市場環境が緩やかに改善し、金融機関や事業会社などで引き続き旺盛な資金ニーズが見込まれます。グローバル・オフリングや外債発行などでは、当社のグローバル・プラットフォームを活用して発行体と投資家をつなぎ、資金調達ビジネスのさらなる拡大を目指します。

## ソリューションや新商品のさらなる拡大

起債に関連する金利ヘッジなどのソリューション・ビジネスや、ライツ・イシュー、行使指定型新株予約権などテ일러メイド型のファイナンス、野村ICGとの連携によるメザンファイナンスなど新サービスの提供を通じて、お客様の多様なニーズに応えていきます。

## 米州における事業基盤の拡充

世界最大の収益機会を有する米州では、今後も事業会社やプライベート・エクイティ・ファンドによる活発な投資および資金回収活動が見込まれます。当社はクロス・ボーダーM&Aやレバレッジド・ファイナンス分野のさらなる強化に加え、現地の事業会社の顧客基盤の拡大などを通じて、中長期的な視点で事業基盤の拡充を目指します。

## すべてはお客様のために

## 「野村 地球環境テクノロジーコンファレンス」を開催

2013年11月28日に9回目となる「野村 地球環境テクノロジーコンファレンス2013」が、野村証券と野村リサーチ・アンド・アドバイザーの共催で開催されました。参加者は約200名で、幅広い業種の上場企業の担当者と、未上場企業やベンチャーの経営者が、事業アイデアの発見やアライアンスの模索のため、積極的に交流しました。プログラムは、経済産業省電力改革推進室の安永企画調整官による基調講演、洋上風力発電やバイオ燃料など環境エネルギー企業5社からのプレゼンテーション、2013年10月8日に東京証券取引所マザーズへ新規上場し、省エネ支援事業を行うエナリスの記念講演でした。野村グループは、今後も、的確な情報発信、事業創造の支援、企業間連携の仲介を通じて、環境エネルギー業界の成長に貢献し、金融ビジネス拡大につなげていきたいと考えています。



コンファレンス資料